

第6学年1組 学級活動指導案

1. 日時・場所 平成26年12月10日(水) 5校時 6年1組教室

2. 議題 「教室を宝箱にしよう」

学級目標

仲間とともに

3. 議題について

(1) 児童の実態 <男子17名、女子15名 計32名>

本学級の子どもたちは、入学して以来クラス替えをすることなく過ごしてきた。そのため、お互いのことをよく分かっており、日頃から男女共に仲がよい。子どもたちは6年生としての1年間でより多くの思い出を胸に卒業を迎えたいと願っており、そのためには、一人一人が責任をもち全力で取り組んでいくこと、強い心をもって最後まで諦めずに乗り越えていくこと、32人の力で素敵な学級をつくっていくことを目指す必要があると考えた。これらのことに向かって、それぞれが力を尽くすのはもちろんのことであるが、すべてにおいて仲間とともにがんばりたい、仲間がいるからがんばれるという思いがあり、「仲間とともに」という学級目標になった。

学級会では、6月に、1年生にもっと学校を好きになってもらいたいという思いから「1年生学校大好き集会」を行った。ここでの話合いと実践は、1年生のためにという相手のことを思う気持ちと行動が生まれ、よりよい活動にするための新たな工夫を考えたりするなど、今までにない姿が見られ、最高学年としての意識を高め、児童会活動や縦割り班活動へとつながっていく大きな経験となった。

9月は、6年生にとって大きな取り組みとなる地区別運動会に向けた「心をつなぐ、最高の地区別運動会にしよう」という議題で話合いを行った。子どもたちは、心をつなぐための方法として、スローガン「仲間とともに 笑顔！全力！勝利を目指せ！！」を決め、さらに個々にめあてを立てることにした。また、全員が共通の物を持って当日を迎えたいという思いから、お守りを手作りすることにもなった。学級が一つになって取り組んできた地区別運動会だったが、雨天のため中止になってしまった。そこで話し合ったのが、「下河原小学校でミニ地区別運動会をしよう」だった。1クラスで対戦相手がない点をどう改善していくのか、自分たちだからこそできる地区別運動会はどのようなものなのかを真剣に、そして楽しみながら考えることができた。何日かに分けて取り組んだ地区別運動会だったが、毎回ポケットにお守りを入れ、全力で取り組み、応援する姿が見られた。4、5年生と8の字跳びを競い合ったり、先生たちと10人跳びで対決したりする形で行ったことは、協力してくれた人たちや、応援してくれた人たちの存在の大きさを実感し、自分たちだけで成し遂げることができなかったという感謝の気持ちももつことができた。

11月は、委員会活動などがあり、休み時間に全員そろって遊ぶ機会が少ないことから、スポーツ大会を行なった。話合いの中では、全員が安心して参加できるものや、みんなが協力できるようなルールの工夫に関する意見が多く出された。これらの学級会では、今までのふり返りで出された点を改善していく姿勢が見られた。提案理由や話合いのめあてを大切にしながら、お互いの意見をじっくりと聞き合い、つながりのある発言をするように意識して話合いを進めることができるようになってきており、子どもたち自身も自分たちの成長を感じ、より話合いに対して意欲的になってきている。

(2) 議題選定の理由

あと約4か月で卒業を迎える子どもたちは、卒業後の下河原小学校のことを考えるようになった。今年度様々な場面で自分たちのことを支えてくれ、共に協力し合ってきた5年生に、自分たちの経験を伝

えることで少しでも力になりたいと思っている。1月以降にきちんとした形で引き継ぎを行っていくためにも、4月からの自分たちの姿をもう一度振り返ることは、必要不可欠である。

提案者は、6年間を共に過ごしてきた仲間と多くの思い出を振り返ることで、学級全体がより一つにまとまり、卒業に向かって進んでいきたいという思いをもっている。子どもたちは学級での出来事や、歩みを思い出として残すために、「宝箱」を作って集めてきた。その宝箱を教室に見立て、教室を見渡すと一目でこの一年の思い出が分かるように作り上げれば、これまでの活動の振り返りをするにもなり、卒業に向けての気持ちを高めていくことができる。学級全体で思い出を振り返ることで、これまでのがんばりや学級目標にもある「仲間」の大切さを改めて感じ、一日一日をかみしめながら、学級が結束力を強めてさらに向上していくことができると考え、本議題を選定した。

4. 評価規準

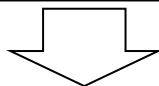
集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

5. テーマとのかかわり

テーマ： 夢や希望をもち、よりよい人間関係を築く特別活動

サブテーマ： 自分もよく、みんなもよい

～聞き合い、折り合い、分かち合い～



高学年の目指す子ども像：

他者の考え方を受け止め、お互いのよさを理解し合い、高め合える行動がとれる子

教師の思い

今回の話し合いは、4月からの自分たちが、どのようにして一步一步進んできたのかを振り返ることになる。下河原小学校のリーダーとして、先頭に立って引っ張ってきた子どもたちだが、すべてが順調に進んできたわけではない。思い出の象徴となる物を考えて教室に飾る活動は、友だちの支えや励ましがあったこと、一人一人の力が学級の力となり、みんなで乗り越えてきたことを感じる、貴重な機会となる。一人一人のよさを考え、認め合う発言を大切にしたい。

また、教室を宝箱にしていくという今までにない活動をすることに對して、心がわくわくするような感覚も大切にしてほしい。これまでの学級会では、自分の意見を伝えるのはもちろんのこと、友だちの意見を聞き、一人一人の意見のよさを活かした、つながりのある発言を意識して話し合いを進めていくように指導してきた。議題に對して、学級にとってよりよい意見はどのようなものなのか考えることを大切にしながら取り組んでいる。今回も、実践をする時のことを思い浮かべ、「～をするのはどうだろう」「こんなこともあるよ」「それやってみたい」など、様々な意見を交わし合いながら、集団決定をしていきたい。

話し合いから実践へと活動を進めていく中で、友だちへの思いや学級への思いをさらに強くし、卒業に向かっているようにしてほしいと考えている。

テーマに迫るための手立て

【事前の活動】

○学級会コーナーの活用

事前に学級会コーナーに議題、提案理由、めあてなどを掲示し、学級会に對しての意欲を高め、各自が自由に時間を使って話し合いについて考え、見通しをもって学級会に臨めるようにする。

○アンケートの実施

学級会コーナーに掲示しているものを見ながら、事前にアンケートを実施する。出された意見を計画委員と確認して、集約・整理していくことで、話し合いの「集める」段階の時間を短縮し、「比べる」段階の話し合いに時間を使えるように工夫する。また、集約した意見を事前に短冊に記入して掲示し、出ている意見を説明したり、分からないことを質問したりすることで、学級全体で意見の共通理解が図れるようにする。

○計画委員への指導

話し合いの進め方の大切な点を確認するとともに、アンケートで出された意見の集約・整理をすることで、話し合いのイメージがもてるようにする。また、本番に近い形での練習では、司会台本を実際に使ったり、板書をしたりすることで、子どもたちが自信をもって本番に臨めるようにする。

【話し合い活動】

○話し合いの可視化

話し合う内容に合わせて、賛成・反対マークを活用し、話し合いの流れが見えるようにする。出てきた意見や理由を全て書くのではなく、話し合いのめあてに沿ったものや話し合いのポイントとなる部分だけを書くようにすることで見やすくし、黒板を見れば今、何を話し合っているのかが分かるようにする。

○共有感のある話し合い

自分の考えを伝えるだけでなく、相手の思いを受け止めながら話し合うことができるようにしていきたい。そのために、自分の考えを相手に伝え、やり方を説明したり、可能な範囲で実際にやってみたりするなど、様々な方法で理解を深め合い、全ての意見をみんなで共有できるようにする。

○つながりのある話し合い

友だちの意見のよいところに共感する発言をしたり、友だちの考えに付け加えて意見を述べたりする姿を賞賛し、つながりのある話し合いができるようにする。一つの意見がきっかけとなり、「こんなこともあった」「あの時こういう思いをしたね」「その思いを飾りたい」というように、一人一人の思いに耳

を傾け、共感することは、子どもから子どもへと意見がつながっていく。それによって、意見そのものも高め合えるようにする。また、心配や反対意見が出た時には、それを解決するような意見が出るように声をかけ、折り合いながらよりよい考えを導き出せるようにしていく。

【事後の活動】

○集団決定を実践へ

実践でも、話合いの提案理由やめあてを思い起こし、それぞれがめあてをもって活動できるようにする。そして、準備の段階から一つ一つの役割に対して協力して取り組み、集団としての満足感や達成感が得られるようにする。

○ふり返りの場

実践を通して学んだことや、学級全体としてどうだったのか考えたこと・感じたことを発表することで、友だち一人一人の思いをみんなで共有していき、学級全員でつくり上げた活動であることが実感できるようにする。教師の話の中でも、めあてを意識した子どもたちの活動を価値付けし、実践や次の話合いへの意欲を高めていくことができるようにする。

6. 活動の実際

(1) 事前の活動

活動の場	活動内容	評価(☆)と支援(○)
12月3日(水) 休み時間	計画委員会で議題の選定をし、学級会のめあてや役割分担の計画を立てる。	○提案者が議題を提案した理由を明確にして、学級会に向けて統一したイメージをもてるようにする。 ○役割を確認し合い、学級会の進め方が理解できるようにする。 ☆学級会に向けて進んで準備をしている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)
12月4日(木) 朝	議題と提案理由、話合いの柱を学級に伝える。 議題に対するアンケートを取る。	○提案者の思いを伝え、一人一人が自分の考えをもてるようにする。 ○話合いの柱を確認し、学級会のイメージがわくようにする。 ☆提案理由とめあてを意識した意見を考えている。 (集団の一員としての思考・判断・実践)
12月5日(金) 特活タイム	計画委員がアンケートを集約する。 計画委員で「集める」段階の意見を精選する。 出てきた意見を学級会コーナーに掲示する。	○提案理由やめあてに沿った意見かどうかを確認する。 ○意見を分類整理し、話合いの流れを確認する。

12月8日(月) 休み時間	司会グループで学級会の流れを話し合う。 役割分担に従ってシミュレーションを行う。	○司会グループが学級会の場면을イメージできるように、必要な助言をする。 ☆担任とともに、学級会の進め方を考えている。 (集団の一員としての思考・判断・実践)
------------------	---	--

(2) 本時の活動

- ①ねらい これまでの自分たちの姿や歩みをふり返りながら、教室を宝箱にする計画を考え、決めることができる。
- ②本時の視点 折り合い、分かち合いの姿はあったか。
相手の意見を受け止めた、つながりのある発言はあったか。
- ③児童の活動計画 別紙
- ④教師の指導計画

児童の活動	評価 (☆) と支援 (○)
<p>1. はじめの言葉</p> <p>2. 司会グループの紹介</p> <p>3. 議題、提案の理由、話し合いのめあての確認</p> <p>議題：「教室を宝箱にしよう」</p> <p>提案理由：教室が宝箱になるように思い出の物を飾って、卒業に向けての気持ちを高めていきたい。</p> <p>めあて：自分たちのこれまでの姿や歩みが、どのような様子だったのかが分かる宝箱にしよう。</p> <p>4. 決まっていることの確認</p> <p>決まっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業時間 特活タイム、休み時間 ・飾る場所 教室の中 <ul style="list-style-type: none"> 廊下側の窓 廊下側後方の掲示板 外側の窓（開け閉めができるようにする。） (思い出ごとに、使うことができるスペースが決まっている。) ・思い出の名前とコメントをつける。 ・卒業式（前日）まで続ける。 	<p>○見通しをもって会を進められるように、学級会カードや司会台本、黒板記録計画で、進め方や記録の仕方を事前に確認する。</p> <p>○自信をもってはっきりと話すことができるように、司会台本を用意し、必要に応じて話す言葉を助言する。</p> <p>☆司会グループとして自分の役割を果たしている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)</p>

<p>5. 話し合い</p> <p>柱1 何を飾るか</p> <p>集めた意見を黒板に貼っておく。</p> <p>① 意見に質問をする。</p> <p>② 意見を比べ合う。 意見を比べながら賛成、反対の意見を言う。</p> <p>③ 意見をまとめる。</p> <p>6. 決まったことの確認</p> <p>7. ふり返りタイム</p> <p>8. 先生の話</p> <p>9. 終わりの言葉</p>	<p>○話し合いのめあてからそれた場合には、めあてを意識しながら話し合ったり決定したりできるように全員に助言する。</p> <p>○司会が話し合いの進め方などでつまづいている時は、みんなに問いかけたり助言したりする。</p> <p>○目安の時刻を提示しておくことで、時間意識をもって話し合いを行えるようにする。</p> <p>☆友だちの意見を認めたり、うなずいて聞いたりしている。(集団の一員としての思考・判断・実践)</p> <p>○自分の思いや話し合いの様子について、ふり返りカードに記入するように声をかける。</p> <p>○実践を意識したふり返りになるように声をかける。</p> <p>☆学級で一つの活動を決めることの意義について理解している。 (集団活動や生活についての知識・理解)</p> <p>○意見のよさを活かそうとした発言や、つながりのある発言、めあてに沿った発言などを取り上げて賞賛し、実践への意欲付けを行う。</p>
--	---

(3) 事後の活動

活動の場	活動内容	評価(☆)と支援(○)
<p>1 2 月 1 1 日 (木) ~ 1 9 日 (金)</p> <p>特活タイム 休み時間</p>	<p>分担を決め、作業を進める。</p>	<p>○自分の役割を意識できるように、決まった計画を学級会コーナーに掲示し、作業が進められるようにする。</p> <p>☆学級の一員として自己の役割を意識し、助けて準備している。 (集団の一員としての思考・判断・実践)</p>
<p>1 2 月 2 2 日 (月)</p> <p>帰りの会</p>	<p>実践をふり返り、感想を交流する。</p>	<p>○話し合いや準備についてもふれ、全員で作りに上げたことを実感できるようにする。</p> <p>○実践を終えて感じたことや、これからに向けての思いを伝え合い、学級全体の気持ちを高められるように声をかける。</p> <p>☆話し合いで決めた内容を理解し、友だちと協力して取り組んでいる。 (集団の一員としての思考・判断・実践)</p>

